



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報



意識を喚起し

進んで行動を

2000～2001年度 国際ロータリーのテーマ

新世代活動月間

第658回 平成12年 9月13日(水)

〔本日のプログラム〕

- | | |
|------------|---|
| 1. 点 | 鐘 |
| 2. ローターソング | |
| 「手に手つないで」 | |
| 3. 会長の時間 | |
| 4. 幹事報告 | |
| 5. 委員会報告 | |

◎ 観月会 ◎

次回予告

★ 9月20日(水)
ライラ準備委員会
理事・役員会

★ 9月27日(水)
クラブフォーラム

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日 (12:30~13:30)	会長	梶田與之助
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	吉田康一郎
事務局	宮崎津佐土原町大字下那珂3887-17	幹事	宮原 建樹
	☎880-0212	会計	後藤 明夫
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員	池田 仁志

いずれにしても、顕著な変化は伝染病等感染症による死亡者が昭和10年の半数近くから、最近では1割前後に減少していることと、成人病、これは最近生活習慣病と呼んでいます、これによる死亡が昭和10年には全死亡の4分の1であったものが、昭和50年以後は全死亡の3分の2以上を占めるに至ったことであります。

従って、生活習慣病が最も重要な疾患ということになります。そこで、この内現在死因別死亡順位が**第1位悪性新生物**、**第2位が心疾患**、**第3位が脳血管疾患**でありますので、この3大疾患について、少し詳細にみてみたいと思います。昭和10年、30年、50年及び平成9年について比較します。()内は死亡割合を示します。

先ず、総死亡であります、昭和10年が116万人、30年が70万人、50年が70万人、そうして、平成9年が91万人と最近総死亡数は幾分増加傾向にあります。

その中で、**悪性新生物**は、昭和10年が5万人(4.3%)、30年が7万8千人(11.2%)、50年が13万6千人(19.4%)、平成9年が27万5千人(30.2%)で、昭和40年代に

は前年に比べて毎年2~3千人の増加、50年代以後には毎年5千人以上の増加、そうして平成に入ってからには毎年1万人前後の増加で年次別死亡数は著しい増加を示しています。

次に**心疾患**は、昭和10年が4万人(3.4%)、30年が5万4千人(7.8%)、50年が9万9千人(14%)、平成9年が14万人(15.3%)で一貫して増加傾向が見られます。

最後に**脳血管疾患**は、昭和10年が11万人(9.9%)、30年が12万人(17.5%)、50年が17万人(24.8%)、平成9年が13万8千人(15.2%)と昭和45年~50年をピークに下降傾向を示し、死因別死亡順位は、昭和10年の1位から2位へ、そうして最近では3位となっています。

つまり私共は将来、3人に1人、現在のような速さで増加が止まらなないと、多分2人に1人は悪性新生物で死ぬことが予想されます。

そこで**悪性新生物**の平成9年の死亡数を昭和25年のそれと比較して、性別、部位別死亡数をみますと、平成9年の部位別死亡順位は**第1位は胃がん**、**第2位は肺がん**、**第3位は肝がん**、そうして**第4位**

は大腸がんとなっています。この中で最も増加傾向を示しているのは、肺がんで昭和25年に比べ平成9年には50倍近くの増加であります。次に大腸がんが9倍、肝がんが7倍、胃がんは2倍程度で、胃がんだけは最近減少傾向を示しています。尚、女性の乳がん及び子宮がんについてみますと、乳がんは昭和25年に比較して平成9年には6倍の増加、逆に子宮がんは2

分の1近くの減少で、乳がんの増加は注目すべきであります。

尚、以上申し上げた重大な疾患について、予防法や治療法について、むしろ詳細に話すべきかと思いますが、それには2時間以上を要しますので、本日はここまでとし、他の機会に譲ることとします。失礼しました。

I 死因別にみた死亡数及び死亡割合(概数)

	総死亡数	細菌感染	成人病	妊産婦乳児	外因死
昭和10年	116万人	50万人(43.4%)	29万人(24.7%)	9万人(7.8%)	4万人(3.4%)
昭和50年	70万人	4万8千人(7%)	50万人(70%)	1万2千人(1.7%)	5万3千人(7.7%)

()内は死亡割合

(1976年8月31日発行、国民衛生の動向—厚生省より)

II 生活習慣病三大死因別死亡数及び死亡割合(概数)

	総死亡数	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
昭和10年	116万人	5万人(4.3%)	4万人(3.4%)	11万人(9.9%)
30年	70万人	7万8千人(11.2%)	5万4千人(7.8%)	12万人(17.5%)
50年	70万人	13万6千人(19.4%)	9万9千人(14%)	17万人(24.8%)
平成9年	91万人	27万5千人(30.2%)	14万人(15.3%)	13万8千人(15.2%)

()内は死亡割合

(1999年8月31日発行、国民衛生の動向—厚生省より)

第657回例会記録

(2000. 9. 6)

☆会長の時間

会長 梶田 與之助 君

皆様 今日は

本日は第657回の例会です。

ビジターのご紹介を致します。

西都RCで雑誌・広報委員をされている、河野謙二君です。ようこそお出で下さいました。

今月は、年齢30歳までの若い人の育成を支援する全てのロータリー活動に焦点を当てるための新世代活動月間です。

ここに、愛知県防犯協会連合会、会長の堀田 一郎氏の家庭の「しつけ」という著述がありましたので、読ませていただきます。

【治安のよい明るい街作りの基本は、家庭のしつけです。

近年、これがおろそかにされているため、小学校でさえ学級の崩壊が一部みられ、中学、高校そして大学でも、学生生徒のマナーに先生が手を焼いております。

教師の努力や責任を問う前に、先ず親が自分の子供に最低限度にせよ、しつけをしっかりとしているかどうかが問われるべきです。しつけといっても、何もむづかしいことを求めるわけではありません。

具体的には、それぞれの家庭の道徳や宗教や伝統が中心になって、個性的なしつけがあると思いますが、共通の基礎はわずか数点ではないでしょうか。

例えば①ウソをいわない②モノを盗まない③他人を傷つけない④弱い人を助ける⑤年長者や先輩を敬う、などです。

これぐらいは、自分の子供に徹底させれば、これからの日本は再び明るいものになります。

何といたっても人を最も愛せるのは、先ず自分の子供に対してでしょう。しつけの基本は愛情ですからこそ、まず家庭のしつけを強調したいのです。】というものです。

青少年の問題行動が起きる度に学校や先生等に責任を転嫁する傾向がよくありますが、私も家庭のしつけに一番の問題があると思います。

21世紀を担う青少年を育成するのに惜しまない努力をしたいものと思っております。

先だつてのガバナー公式訪問の際、山脇会員にお世話になった、記念撮影の写真を安満ガバナーに送りました所、ありがとうございます、とのお礼状が参りました。

それから、ガバナーエレクト事務所開設(平成12年9月1日より)の案内も来ております。(ガバナーエレクト 齋RC 大淵達郎君です)

☆幹事報告

幹事 宮原 建樹 君

例会変更等の連絡はありません。

本日のプログラム、会員卓話の伊東君が所用のため、欠席されましたので、山脇会員に代わりにお願いしました。

よろしくお願い致します。

☆出席報告

委員長 郡 司 武 俊 君

会 員 数 28名
例 会 出 席 者 22名
出 席 率 79%
メ-クア-ッ-プ者数 2名
修 正 出 席 率 86%
欠 席 者 名 池田.林(卓)神宮寺.林(厚)

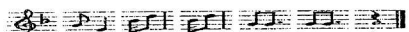
☆親睦委員会

委員長 徳 丸 彰 一 君

観月会の時間と場所、出席者の確認を再度致します。

出席者数 31名
日 時 9月13日(水)
午後 6時55分集合
(シーサイドフェニックスロビー)
場 所 シーサイドフェニックス

多数のご参加、有り難う御座います。



9月のセレモニー

本人 誕生祝い

宮本 信吾 君(8勝)
藤堂 孝一 君

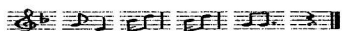
夫人 誕生祝い

岩切 純子 さん

結婚 祝い

江崎 富治 ご夫妻

以上の皆様、心よりお祝いを申し上げます。



♡ Happy Voice ♡

誕生のお祝い、有り難う御座います。
62歳の誕生日を迎えましたが、これからも健康に気をつけて、時間の許す限り、例会、諸行事等には参加致したいと考えております。

宮本 信吾

思い起こせば、東京オリンピックの昭和39年9月23日 *秋分の日*、残暑厳しい中での挙式でした。

ありがとうございました。

江崎 富治



病気の変遷

山脇 忍

病気の変遷をみるには、年次別、死因別にみた死亡数及び死亡割合をみますと理解し易いので、昭和10年と昭和50年の両統計を比較しました。わが国の統計では昭和60年頃までは、死因を細菌感染によるもの、成人病によるもの、妊産婦乳児、そして外因死の四つに大別して集計したのがありました。尚最近では、この分類はとらないようになってきました。しかし、この分類は全体像をみるのに非常に便利ですので、それを申しあげることになります。ここに挙げた数字は全て概数であります。

それによりますと、総死亡数は昭和10年の116万人に対し、昭和50年には70万人と減少がみられます。その中で細菌感染等による死亡は、昭和10年が50万人、昭和50年が4万8千人と極端に減少しています。しかし、平成9年には1~3月のインフルエンザの流行により、高齢者を中心に肺炎による死亡者が前年より1万2千人増加して9万4千人に上っています。これにより平成9年の細菌感染等

による死亡数は11万人以上に達していると考えられますので、昭和50年に比較して2倍以上の死亡となり、確かに最近は増加傾向にはありますが、これはあくまでインフルエンザの大流行による統計上のかく乱ではないかと思えます。

次に成人病は、昭和10年が29万人、昭和50年が50万人と2倍近く増加していますが、これを死亡割合で見ますと、昭和10年が24.7%、昭和50年が70%で、3倍以上の増加であります。次に妊産婦乳児の死亡は、昭和10年が9万人、昭和50年が1万2千人と約8分の1に減少しています。最後に外因死であります。これには不慮の事故死とか自殺が入ります。昭和10年が4万人、昭和50年が5万3千人であり、死亡割合は昭和10年が3.4%、昭和50年が7.7%で、死亡割合で比較して2倍以上に増加しています。尚、最近交通事故死の増加とともに、中年の自殺がかなり増えていきますので、最近の統計では更に増加していることが予想されます。